

黒田桜



「黒田桜」「黒田の百年桜」は京都市右京区京北宮町という場所にあります。桜の名所である「常照皇寺」の東方で車で10分ほどです。「春日神社」の社前、大鳥居の左手にある桜で樹齢300年を超える山桜（やまざくら）の一種です。この「春日神社」は平安中期の長和2年（1013）に、古代より当地の領主であった藤原氏の氏神である大和の春日大社の祭神を勧誘し「宮野大明神」として創建したのが始まりだそうです。その後江戸中期の享保8年（1723）に京都の吉田神社に願い出て「春日大明神」と改められた後、明治16年（1886年）に「春日神社」と公に定められました。

この「春日神社」の前の道路わきに1本だけあるのが「黒田百年桜」です。この場所にはかつて桜の大木があったのが明治6年（1873年）の台風によって倒木してしまい、これを惜しんだ村人がその跡に1本の八重桜を植えたところ、一重と八重の混じった珍種であったことが判明したそうです。ところがこの桜の木は突然変異のため種子はできないということだったそうですが、昭和52年（1977年）「桜守」で有名な佐野藤右衛門親子の30年に及ぶ執念の末に苗づくしに成功しこの幻の品種が当時樹齢100年であったことや、明治100年にあたることから「黒田百年桜」と命名されたということです。この変種桜は幹周囲3,1m 高さ8mで10～12枚の八重の中に一重の混じった紅色の大輪の花が手鞠のように固まって咲くのが大きな特徴です。京都では遅咲きの桜として例年4月中旬から下旬にかけて満開になります。ライトアップも行われ、神社向かいの広場にて「黒田百年桜まつり」が開催され、琴の演奏などの催しや、よもぎ餅や山菜などの特産品も出品されています。



{閑話休題}

京都では桜の開花が年々早くなっているように思われます。アレッ！ 桜が咲き始めとるがな、何時の間に満開かな、もう散り始めたんかと心の準備もできないまま、ゆっくりと桜を愛でることなく「もうおしまい」、といった調子です。

ところが、どっこい京都は広うございます。遅咲きの「御室桜」もびっくりな場所があります。それも京都市ですよ、市、京都市右京区、左京区の北の方です。京北の常照皇寺、黒田桜、花背、さらには広河原まだまだあります。探すのも一興！！